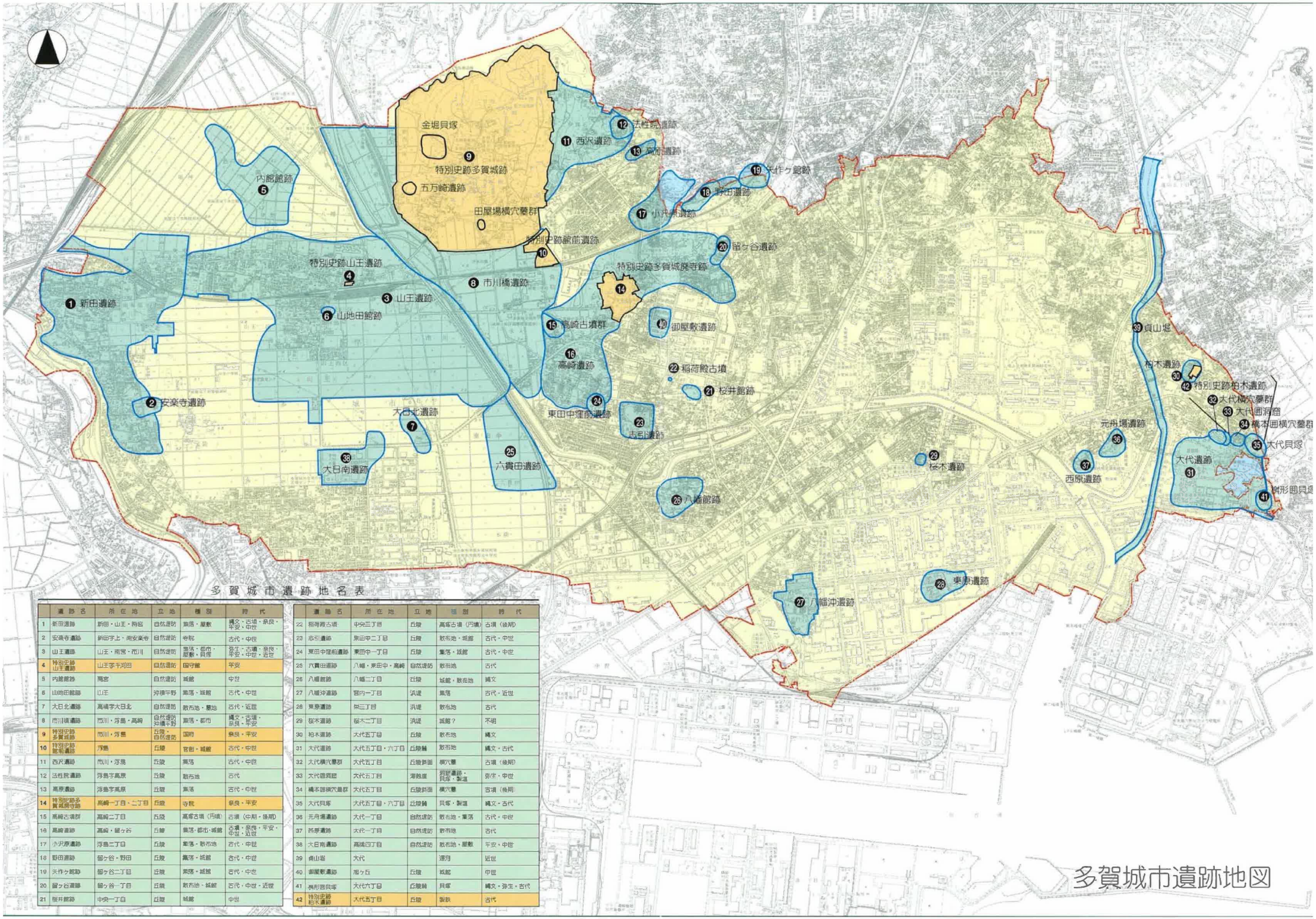


多賀城市遺跡地名表

	遺跡名	所在地	立地	種別	時代
1	新田遺跡	新田・山王・南宮	自然遺跡	集落・屋敷	縄文・古墳・奈良・平安・中世
2	安楽寺遺跡	新田字上・南安楽寺	自然遺跡	寺院	古代・中世
3	山王遺跡	山王・南宮・市川	自然遺跡	集落・都市・屋敷・貝塚	弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世
4	特別史跡山王遺跡	山王字千刈田	自然遺跡	国守館	平安
5	内館館跡	南宮	自然遺跡	城館	中世
6	山地田館跡	山王	沖積平野	集落・城館	古代・中世
7	大日北遺跡	高橋字大日北	自然遺跡	散布地・墓地	古代・近世
8	市川橋遺跡	市川・浮島・高橋	自然遺跡・沖積平野	集落・都市	縄文・古墳・奈良・平安
9	特別史跡多賀城跡	市川・浮島	丘陵・自然遺跡	国府	奈良・平安
10	特別史跡館前遺跡	浮島	丘陵	官衙・城館	古代・中世
11	西沢遺跡	市川・浮島	丘陵	集落	古代・中世
12	法性院遺跡	浮島字高原	丘陵	散布地	古代
13	高原遺跡	浮島字高原	丘陵	集落	古代・中世
14	特別史跡多賀城廃寺跡	高崎一丁目・二丁目	丘陵	寺院	奈良・平安
15	高崎古墳群	高崎二丁目	丘陵	高塚古墳（円墳）	古墳（中期・後期）
16	高崎遺跡	高崎・留ヶ谷	丘陵	集落・都市・城館	古墳・奈良・平安・中世・近世
17	小代原遺跡	浮島二丁目	丘陵	集落・散布地	古代・中世
18	野田遺跡	留ヶ谷・野田	丘陵	集落・城館	古代・中世
19	矢作ヶ館跡	留ヶ谷二丁目	丘陵	集落・城館	古代・中世
20	留ヶ谷遺跡	留ヶ谷一丁目	丘陵	散布地・城館	古代・中世・近世
21	桜井館跡	中央一丁目	丘陵	城館	中世
22	稲荷殿古墳	中央三丁目	丘陵	高塚古墳（円墳）	古墳（後期）
23	志引遺跡	東田中二丁目	丘陵	散布地・城館	古代・中世
24	東田中窪前遺跡	東田中一丁目	丘陵	集落・城館	古代・中世
25	六貴田遺跡	八幡・東田中・高崎	自然遺跡	散布地	古代
26	八幡館跡	八幡二丁目	丘陵	城館・散布地	縄文
27	八幡沖遺跡	宮内一丁目	浜堤	集落	古代・近世
28	東原遺跡	栄三丁目	浜堤	散布地	古代
29	桜木遺跡	桜木二丁目	浜堤	城館？	不明
30	柏木遺跡	大代五丁目	丘陵	散布地	縄文
31	大代遺跡	大代五丁目・六丁目	丘陵麓	散布地	縄文・古代
32	大代横穴墓群	大代五丁目	丘陵斜面	横穴墓	古墳（後期）
33	大代囲洞窟	大代五丁目	海蝕崖	洞窟遺跡・貝塚・製塩	弥生・中世
34	橋本囲横穴墓群	大代五丁目	丘陵斜面	横穴墓	古墳（後期）
35	大代貝塚	大代五丁目・六丁目	丘陵麓	貝塚・製塩	縄文・古代
36	元舟場遺跡	大代一丁目	自然遺跡	散布地・集落	古代・中世
37	西原遺跡	大代一丁目	自然遺跡	散布地	古代
38	大日南遺跡	高橋四丁目	自然遺跡	散布地・屋敷	平安・中世
39	貞山堀	大代		運河	近世
40	御屋敷遺跡	留ヶ丘	丘陵	城館	中世
41	横形囲貝塚	大代六丁目	丘陵麓	貝塚	縄文・弥生・古代
42	特別史跡柏木遺跡	大代五丁目	丘陵	製鉄	古代

多賀城市遺跡地図

Ⅱ　市川橋遺跡第30次調査

1．調査に至る経緯と経過

本調査は、中央公園の管理棟建設に伴い実施したものである。中央公園は平成５年度に事業認可を得て整備が行われている。この管理棟は、平成９年度に整備計画の見直しが行われ、現在の位置に建設することになった。管理棟の施設内容については平成11年度に、施設課とこの事業に関連する文化財課及び商工観光課との協議の結果、文化財のガイダンス施設も併せたものとされた。平成13年度には施設課との間で埋蔵文化財の取り扱いについて協議が行われ、建物の基礎工法は地下に影響を与えるパイル工法で行うことから、平成14年度に事前調査を実施することになった。同年10月30日付けで発掘調査の依頼があり、31日から重機による表土除去を行った。11月11日から遺構検出作業を開始し、水田跡を発見した。13日には水田が２時期の変遷があることを確認した。15日には、遺構の検出状況を撮影し、水田跡より古い杭列跡を発見した。29日には完掘状況を撮影し、12月５日に調査を終了した。

第２図　調査区位置図

2．調査成果

(1)　基本層序

Ⅰａ層　現代の盛土層　層厚74㎝～1.2m

Ⅰｂ層　現代の水田耕作土層　層厚28～55㎝

Ⅱａ層　調査区の東端部に堆積する灰色粘土層　層厚11～24㎝

Ⅱｂ層　調査区の東端部を除く全域に堆積する暗オリーブ灰色粘土層　層厚２～25㎝

Ⅲ　層　地山　灰オリーブ色砂層　遺構検出面

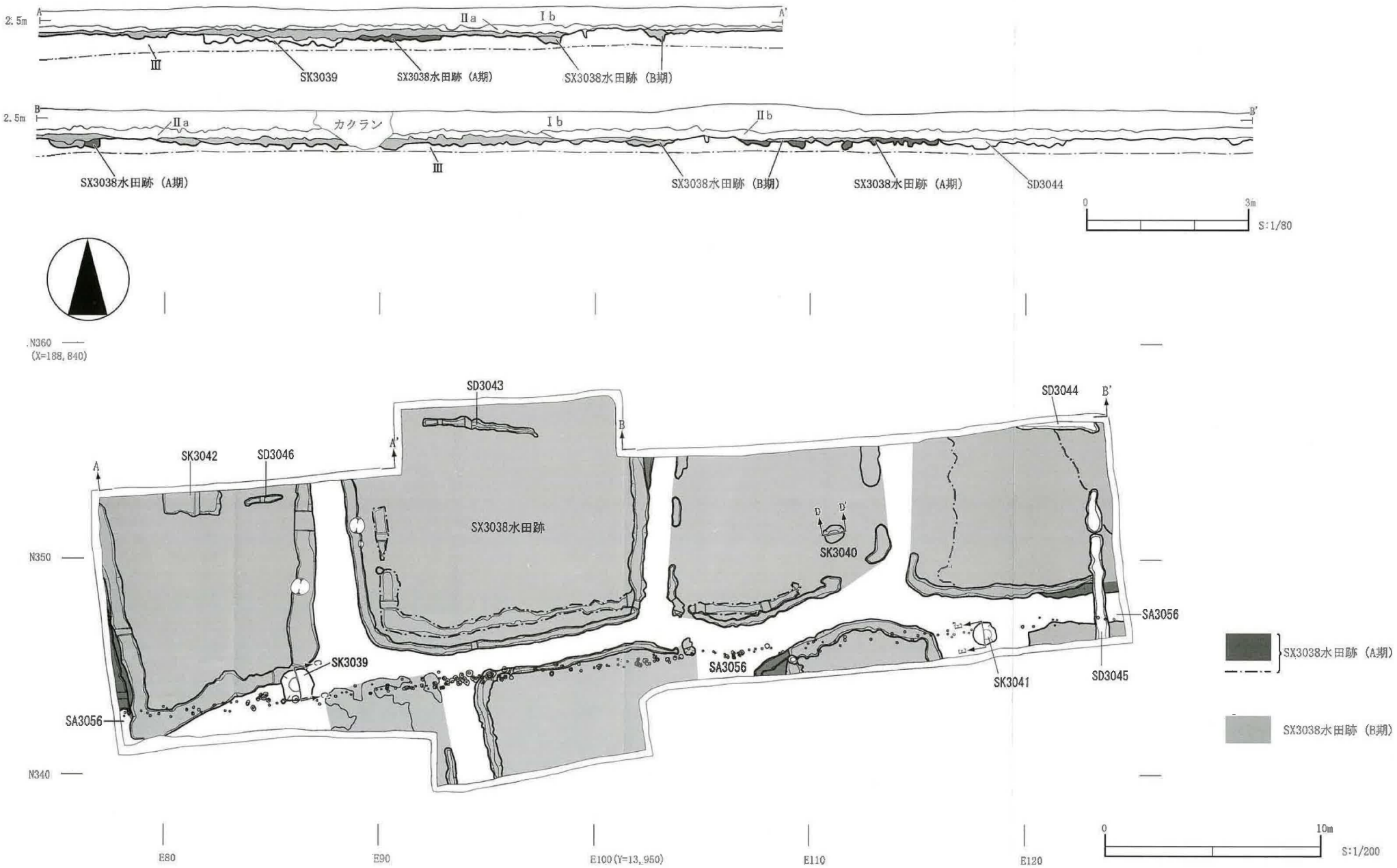
(2)　発見した遺構と遺物

発見した遺構は、水田跡１面、杭列跡１条、土壙４基、溝跡５条である。これらは全て地山面で発見した。

SX3038水田跡

遺存状況が悪いため畦畔を検出することはできなかったが、擬似畦畔を平面的に発見したため水田跡として認定した。水田跡は調査区の全域にわたって発見した。SK3039・3040・3042、SD3043・3044・3045・3046、SA3056と重複しており、SK3040・3042、SD3043・3046、SA3056より新しく、SK3039、SD3044・3045より古い。全ての水田跡が調査区外へ延びているため、全体を把握できたものはない。A期→B期の２時期の変遷を確認した。

A期：B期の水田によって壊されているため、発見できたものは５区画である。確認できた一辺の規模は11.8mである。擬似畦畔に沿って幅21～93㎝、深さ11～18㎝の小溝を確認できた。耕作土は１層確認でき、地山ブロックを多量に含む黄灰色粘土である。遺物は出土していない。

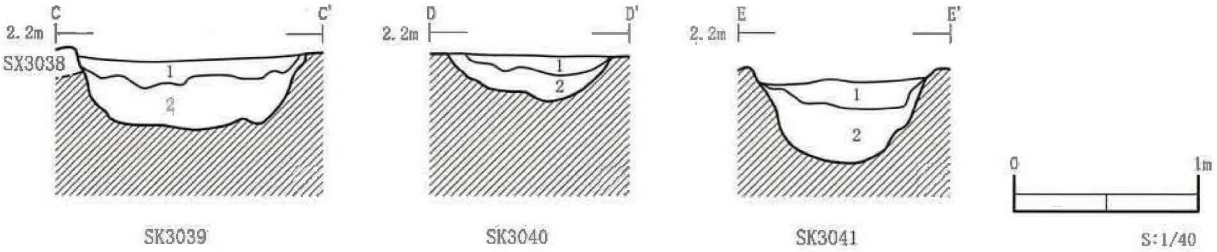


第３図　遺構平面図・断面図

B期：確認できたものは8区画である。A期とほぼ同位置につくられている。確認できた一辺の規模は6.8～13.1mである。擬似畦畔に沿って幅0.2～1.3m、深さ12～22cmの小溝が確認できた。耕作土は2層確認でき、1層は灰白色火山灰をブロック状に少量含むオリーブ黒色粘土で、2層は黒褐色粘土をブロック状に含む灰色粘土である。擬似畦畔の規模は、幅1.0～2.2mである。遺物は土師器杯・甕、須恵器甕、丸瓦（Ⅱ類）が出土している。

SA3056杭列跡

調査区南半部で発見した東西方向の杭列跡である。打ち込んだものと掘り方を持つものとがある。確認できた長さは46.8mである。調査区の外へ延びているため、全体は把握できなかった。SX3038、SK3039・3041、SD3045と重複しており、それらより古い。方向は東で17度12分北に偏する。掘り方はおおよそ円形で、規模は直径11～30cm、埋土は地山ブロックを含む灰色砂質土である。いずれも木質は残っておらず、オリーブ黒色粘土の柱痕跡として確認できた。柱痕跡の平面形はおおよそ円形であり、規模は直径6～13cm、深さ12～20cmである。



第4図　土壙断面図

SK3039土壙

調査区西半部で発見した。SX3038と重複しており、それより新しい。平面形はほぼ円形であり、規模は直径1.4m、深さは45cmである。底部は概ね平坦であり、壁は一部急角度で立ち上がっている。埋土は2層に分けられ、1層はオリーブ黒色粘土、2層は灰色粘土と石灰質の石と砂を含む黄灰色粘土である。遺物は出土していない。

SK3040土壙

調査区東半部で発見した。SX3038と重複しており、それより古い。平面形はほぼ円形であり、規模は直径91cm、深さは26cmである。底部には若干凹凸が認められ、壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は2層に分けられ、1層はオリーブ黒色粘土、2層は小石を多く含むオリーブ黒色粘土である。遺物は出土していない。

SK3041土壙

調査区東半部で発見した。SX3056と重複しており、それより新しい。平面形はほぼ円形であり、規模は直径1.1m、深さは50cmである。底部は中央がやや窪んでおり、壁は急角度で立ち上がっている。埋土は2層に分けられ、1層はオリーブ黒色粘質土、2層は地山をブロック状に含むオリーブ黒色粘質土である。遺物は出土していない。

SK3042土壙

調査区の西半部で発見した。SX3038と重複しており、それより古い。北側が調査区外へ延びており、

検出した南側の平面形は方形である。規模は南辺が2.5mで、深さは16cmである。底部は凹凸があり、壁は一部急に立ち上がっている。埋土は地山ブロックを含む暗灰黄色粘土である。遺物は出土していない。

SD3043溝跡

調査区中央部で発見した東西溝である。SX3038と重複しており、それより古い。長さ5.4m、上幅25～47cm、下幅6～27cm、深さ12cmである。方向は西で4度58分北に偏する。遺物は出土していない。

SD3044溝跡

調査区東半部で発見した東西溝である。SX3038と重複しており、それより新しい。長さ3.8m以上、上幅52cm以上、下幅40cm以上、深さ14cmである。方向は西で2度49分北に偏する。埋土は地山ブロックを含むオリーブ黒色粘土である。遺物は出土していない。

SD3045溝跡

調査区東半部で発見した南北溝である。SX3038、SA3056と重複しており、それらより新しい。長さ6.9m以上、上幅38～76cm、下幅23～57cm、深さ12cmである。方向は北で4度5分西に偏する。遺物は出土していない。

SD3046溝跡

調査区西半部で発見した東西溝である。SX3038と重複関係があり、それより古い。長さ1.8m、上幅23～34cm、下幅11～34cmである。方向は西で8度37分北に偏する。遺物は出土していない。

遺構外出土遺物

Ⅱa・Ⅱb層より土師器、須恵器、須恵系土器、丸瓦（Ⅱ類）、平瓦（ⅠA類、ⅡB類）などが出土した。全体に出土量が少なく、破片のみで図化できるものはない。

3．まとめ

今回の調査では、2時期の水田跡1面、杭列跡1条、土壙4基、溝跡4条を発見した。そのうちSX3038水田跡について若干の検討をしてみる。

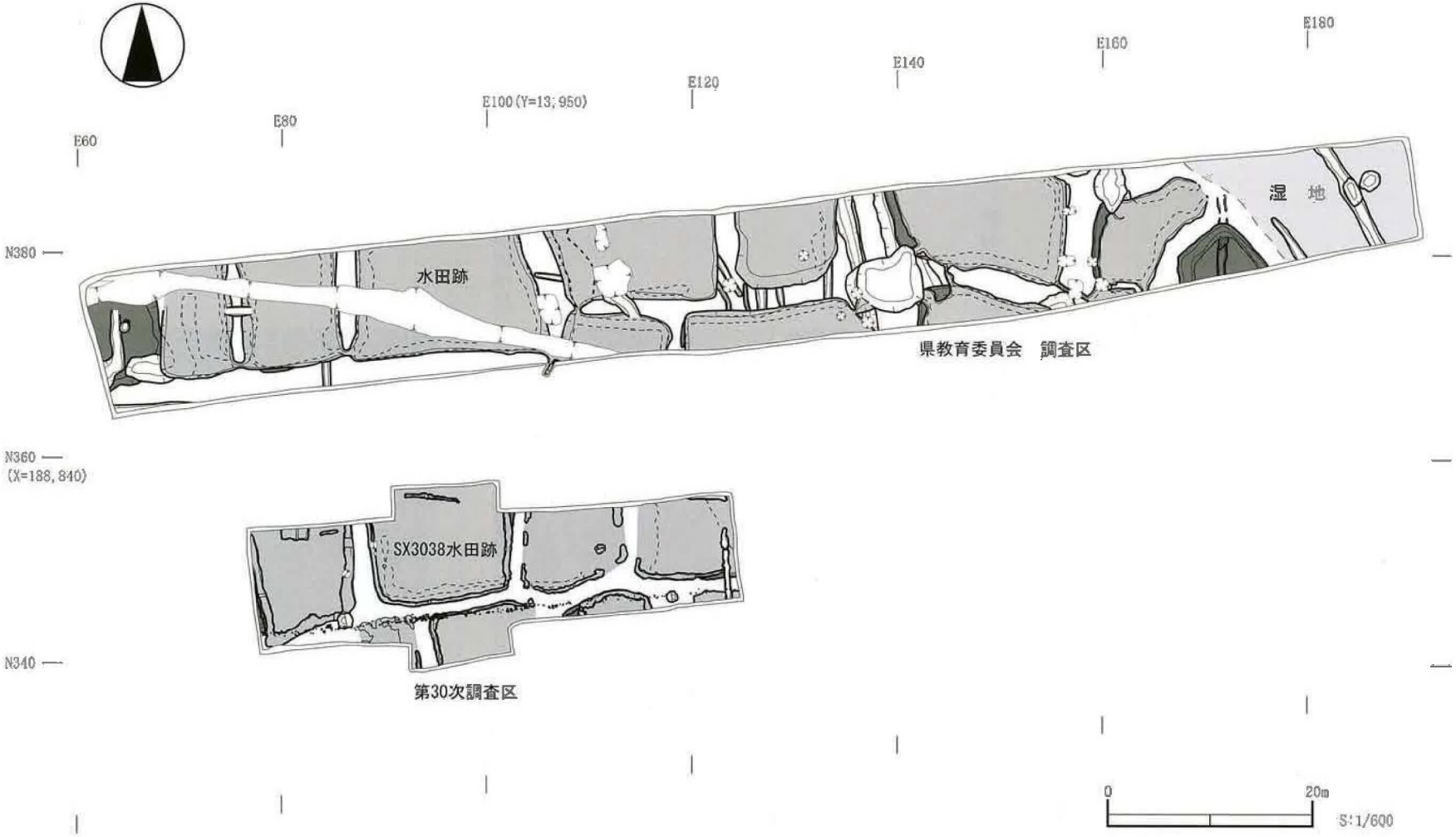
SX3038水田跡はA期→B期の変遷が確認できた。10世紀前葉頃に降下した灰白色火山灰についてはA期の耕作土に含まれておらず、B期の耕作土にはブロック状に含まれている。したがって、A期は10世紀前葉以前、B期は10世紀前葉以降と考えられる。

今回の調査区は、南北大路と北2道路によって区画されており、多賀城の南門から南東に約200m離れた位置にある。また、県教育委員会が北側隣接地で行った調査によると、同時期の水田跡が発見されている。周辺の調査成果と併せて考えると、この付近では10世紀前葉前後に水田耕作が行われていたことが明らかとなった。

参考文献

第3回東日本の水田跡を考える会－資料集－　1990

宮城県教育委員会『宮城県文化財調査報告書第184集　市川橋遺跡の調査　－県道『泉－塩釜線』関連調査報告書Ⅲ－　2001



第５図　本調査区と周辺の調査区

調査区全景（南西より）

調査区全景（南東より）

調査区全景（東より）